

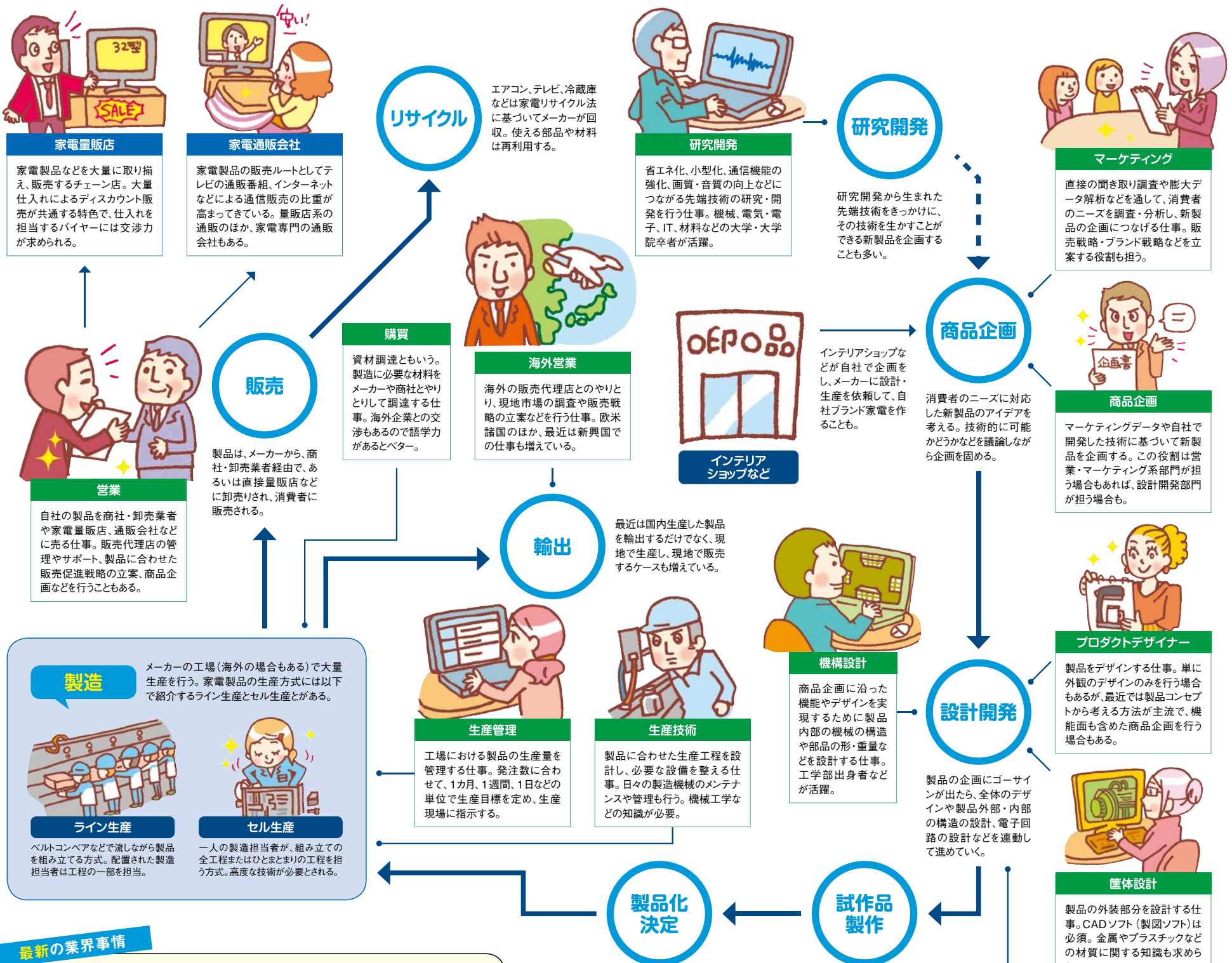
仕事がわかる業界図鑑 vol.28

“家電業界”

取材・文 / 伊藤敬太郎 撮影 / 田中史彦 イラスト / 藤井昌子

家電製品ができるまでの流れに沿って仕事を紹介

私たちの生活に欠かせないテレビ、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジなどの家電製品。どんどん便利になっていく家電製品に日々触れる中で、将来の選択肢として家電業界に関心をもつようになった高校生も多いのでは？ これらの製品が企画され、工場での大量生産を経て販売され、リサイクルされるまでの流れとそれぞれのプロセスにかかわるさまざまな職種をまとめて解説！



最新の業界事情

キーワードは「デジタル化」「省エネ化」「海外展開」

家電製品は2000年代にデジタル技術・通信技術を取り入れた製品が一気に主流となった。薄型テレビ、デジタルカメラ、DVDレコーダーはもちろん、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機といった白物家電もインターネットや家庭内ネットワークに接続できるデジタル家電（情報家電）として進化を続けている。また、環境や省エネへの意識が高まるなか、消費電力量を押さえる省エネ技術も急速に進化している。

一方、国内市場が縮小するなかでメーカーの海外展開も加速。工場だけでなく研究所などの重要拠点を海外に設ける例も増加し、各社外国人採用の比重が上昇。日本人の新卒採用でもグローバル人材としての資質が強く求められるようになっていく。

なるには？

美術系工芸系の大学・短大・専門学校などのプロダクトデザイン（家電などの工業製品のデザイン）に特化した学科・専攻に進学するのが王道。絵を描く技術やデザインと同時に、工業製品の構造や仕組みについても学ぶことができる。就職先としては、家電メーカーのほか、工業製品のデザインに特化したデザイン事務所などがある。

河村さんの「1日」 9:00に出社し、メールチェック。その後、アイデア出しをする日は製品の手描きのスケッチをいくつも描く。アイデアを発展させる場合はパソコン上でデジタル絵画を作成。午後は打ち合わせも多い。普段は19:00退社だが業務終了時は遅くなることも。

製品の革新性を表現するためにもこだわった。2色のうちの1色、ルビレッドは当時の炊飯器としては異例で、その斬新さもヒットの要因だ。「これからも、使う人の生活を豊かにし、いい方向に変えられるような製品を作っていきたいですね。それがこの仕事の一番のやりがいです」



経営陣を含む会議でゴーサインが出たら製品化。生産工程へ。



設計開発の段階で、何回か試作品を製作する。使いやすさなどを確認しながら改良を重ね、そのつど会議で検討。

生活の中でどう使われるかをイメージして家電をデザイン

プロダクトデザイナー Product Designer

三菱電機株式会社 デザイン研究所 河村玲永子さん(26歳)



職種 PICK UP!

愛知県立岡崎北高校、名古屋市立大学芸術工学部卒業。2007年4月、三菱電機に入社。デザイン研究所ホームシステムデザイン部に配属となる。